

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2025



所 属：人文学科保育・幼児教育専攻

名 前： 金戸 清高

ティーチングポートフォリオの作成・更新手順

ティーチングポートフォリオ（TP）は、教育活動の成果や実践を記録し、教育活動を公表するとともに、振り返りや改善に役立てるための重要なツールです。以下に、ティーチングポートフォリオを新規に作成する、または更新する方法を示します。

作成日：2025 年 4 月 30 日

教員氏名：金戸 清高

所属：人文学部 人文学科 保育・幼児教育専攻

1. はじめに

私は人文学部人文学科こども専攻に所属している。共通教育科目の他専門科目として保育ースおよび児童教育コースの科目を担当している。またクリスチ안의教員として大学における宗教教育の企画・実行をする宗教センターの活動を補佐する諮問機関としての宗教委員会に所属し、礼拝等の宗教活動に携わっている。

2. 教育の責任

共通教育科目および教職・保育の専門科目教員として学生が高等教育機関卒業者にふさわしい教養を備え、かつ教員免許や保育士資格を得るのに十分な資質を得るようになるための適切な支援をすることに励んでいる。

(1) 授業科目の担当

科目名	開講年度時期	履修者数（平均）	備考
ライティングメソッド	2023～2025 後期	5 名（1 年）	共通教育科目
フレッシュマンゼミ	2022～2025 前期	30 名（1 年）	同上
キリスト教と文学	2022～2025 後期	10 名（3 年）	同上
国語（小）	2022～2025 前期	45 名（1 年）	児童教育専攻必修
国語科教育法	2022～2025 後期	45 名（2 年生）	同上
こどもと言葉	2023～2025 前期	30 名（1 年生）	保育幼児教育専攻必修
チャイルドケアゼミ	2023～2025 後期	30 名（3 年生）	保育幼児教育専攻必修
保育内容（言葉）	2022～2025	30 名（1 年）	保育コース・保育幼児教

	後期		育専攻必修
保育内容の理解と方法Ⅰ	2025 前期	30 名（2 年・3 年）	保育幼児教育専攻必修
保育内容の理解と方法Ⅱ	2025 後期	30 名	保育幼児教育専攻必修
保育内容の理解と方法Ⅲ	2025 前期	30 名	保育幼児教育専攻
こども家庭支援論	2022～2025 前期	30 名（3 年）	保育幼児教育専攻必修
子育て支援	2022～2025 後期	30 名	保育幼児教育専攻必修
保育実習指導Ⅲ	2022～2025 前期	2 名	保育幼児教育専攻必修
保育実習Ⅲ	2022～2025 実習期間	2 名（3 年）	保育幼児教育専攻必修
教職実践演習	2022～2025 後期	30 名	保育幼児教育専攻必修
特別研究	2022～2020 後期	5 名	保育幼児教育専攻必修
卒業研究	2022～2020 通年	5 名（4 年）	保育幼児教育専攻必修

■ 主要授業科目

キリスト教と文学

リベラルアーツ系学部の基盤となる教養科目としての「文学」と、また大学の基本理念に関する「キリスト教」の世界観の接点となる内外の作品を紹介し、学生の理解を促す。

保育内容（言葉）

幼稚園免許および保育士資格取得のための科目として、学生がそれぞれの資格を得るために必要な知識と技術を身につけるための支援をする。

国語科教育法

小学校教諭免許取得のために必要な科目として、また教育実習を控えた学生が授業を円滑にデザインし、進めることができるための支援をする。

■ 非常勤講師

熊本学園大学社会福祉学部子ども家庭福祉学科 「児童文学論」

国立熊本医療センター附属看護学校 「哲学」

(2) 教育組織運営

宗教委員

就職支援委員

3. 教育の理念

(1)理念 1

学内では少数になってしまったキリスト者の教員として、建学の精神の涵養を目指している。

(2)理念 2

共通教育科目担当の教員として、基礎学の観点から知識の伝達にとどまらない総合力を身につけさせることを目標としている。

(3)理念 3

専門教育すなわち教職等の関連科目担当者として、子どもや保護者に寄り添う保育者・教師としてキリスト教大学の卒業生として大切にしてほしい愛他精神が育つことを願っている。

4. 教育の方法

(1) 幅広い知識と教養を身につけるために、折に触れて 様々な書籍 等の紹介をする。

(2) 講義科目であってもできるだけ学生それぞれが話し合ったり、発表したりできる機会を作る。

(3) OH 以外でも細かい支援ができるよう、ラインアドレス等を学生に公開し、いつでも質問や相談ができるようにしている。

5. 教育改善のための努力

(1)改善努力 1

前回の振り返り、本時の内容、次回の予告および課題の内容について、授業の前後に明確に伝え、また質問には丁寧に答えるように心がけている。

(2)改善努力 2

講義タイプの授業でもできるだけ知識伝達にとどまらないで、グループディスカッションを適宜導入し、学生の集中力が散漫にならないよう努力している。

6. 教育の成果・評価

年度により違いはあるが学生の授業評価等については徐々に改善しつつあるようだ。

7. 今後の教育に関する課題と目標

3 ～5 に記述したことを更に進めていきたい。

【根拠資料】

・担当科目シラバス

- ・授業評価アンケート結果
- ・Research Map および Googl Scholar